

# 発見! きらめきのト vol.10

学業、部活、サークル、イベントなどなど、さまざまな分野でキラリと輝く仲間を紹介。  
 今回はジャマイカ主催の国際交流戦「USオープン」に日本ITFテコンドー協会  
 日本代表として参加した、藤原健男さん(法4年)!

藤原さんの所属する協会では体にプロテクターを着けずに競技を行う。迫力満点のキックや手技に正面から向き合うのには相当な根性が必要だ。



藤原 健男 さん  
(法4年)

自分が頑張ることでテコンドーを多くの人に知って欲しい。“跆拳道”はこれから一生歩んでいくもの。目標は世界一!

- 戦績**
- 第五回東京都テコンドー選手権大会  
2006.5.7 マツギ(組み手)準優勝
  - 第二回全日本テコンドー交流試合  
2006.10.8 マツギ(組み手)準優勝
  - 第六回東京都テコンドー大会  
2007.9.7 マツギ(組み手)優勝
  - アメリカUSオープン出場  
2008.7.5



**DATE1 テコンドー**  
 韓国の国技。“足のボクシング”と言われるほど多彩な足技を主体とした武道/スポーツ。「跆拳道」は、踏む・跳ぶ・蹴るなどの足技、「拳」は突く、叩く、受けるなどの手技、「道」は、礼に始まり礼に終わる精神を表している。

**DATE2 TAKEO FUJIWARA**  
 「竹を割ったような性格。きりりとして爽やかな人!」中・高では野球部に所属。次は個人競技の武道を、と大学からテコンドーを始める。父・妹もテコンドーをしている藤原家はテコンドーファミリーとしてちょっとした有名人なのだ。



学生記者  
岡田真那(英3年)

学内で会ったらぜひ「跳び蹴り」を見せてもらってください。世界一、期待しています!

## 仕事②の現場から interview

私はドイツ・オーバーハウゼン市にあるドイツ国際平和村の正規職員として働いています。ドイツ国際平和村は、母国で十分な医学的治療を受けることができない紛争や危機的状况に直面した子どもたちへの援助を目的とし、1967年市民運動により設立されました。現在主に3つの活動を中心に行っています。まず1つ目は、傷ついた子どもたちへのヨーロッパでの医療的援助です。戦争や危機的状況下で罪もなく傷ついた子どもたちをドイツで治療し、リハビリを行い、できるだけ早く母国の家族のもとへ帰すという活動を行っています。また私たちは子どもたちの母国での活動にも力を入れています。これが2つ目の活動です。医療施設の充実をはじめ、さまざまな援助活動を行っています。また物資の援助、特に薬の分野における援助にも力を入れています。この母国での活動は、子どもたちの治療を母国でできるようになることを目標として行われています。そうすれば、家族から離れて治療を受けなくてもよくなるからです。最後に3つ目の

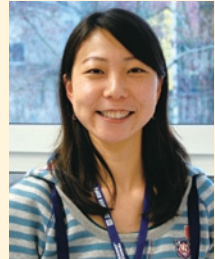
活動として、国から認定された平和教育活動を行っています。この活動を通して平和教育が実践的な貢献へとつながることを願っています。このドイツ国際平和村での私の役目は橋(Bridge)だと考えています。日本とドイツの間にある橋。日本からのさまざまな問い合わせの応対、ドイツから日本へ向けての広報活動、そして翻訳や通訳など。担当している仕事は実に多岐にわたっています。獨協大学の学生さんや卒業生からもチャリティイベントやボランティア、また卒業などの問い合わせもあり、とても嬉しく思っています。



平和村の子どもたちと

ドイツ国際平和村で、一年間ボランティアをしているときにドイツ語を勉強しておいてよかった、勉強して無駄なことはないと何度も心の底から思いました。病気がけがを負っている子どもたちのお世話は簡単なことではありません。ましてや言葉の聞き違いによる間違えは許されない世界です。ドイツ国際平和村に来ているさまざまな国の子どもたちとの会話はもちろんドイツ語です。言葉は子どもたちとの信頼関係を築くのに、とても重要な鍵を握っています。ドイツ語を知らなかったら、きっと子どもたちからのサインを見逃していたに違いありません。決して楽な仕事ではありません。どんなに頑張ってもならない紛争・内戦、数々の問題が世界にはたくさんあります。だから挫けることも悩むことも多々あります。それを支えてくれているのは、大学時代に得た友人たちであり、ドイツ国際平和村にいる子どもたちの笑顔です。だから私は今後も走り続けたい。今やっていることが将来何の役に立つか、そのときにはわからないものです。でも一生懸命やっていることはいつか必ず報われます。だからこそ今、目の前にあること一つひとつを大切にしていきたいと日々思っています。

## 平和へのかけ橋—Brücke— となるために



ドイツ国際平和村職員  
 穴倉 妙子 さん  
 (00年独卒)

SHISHIKURA Taeko  
 卒業後4年間、日本の一般企業で働き、2004年に渡独。1年間ドイツ国際平和村でボランティアをし、2007年より正規職員として従事。